

武蔵野大学サステナブルキャンパスプロジェクト

研究員 氏名 明石修
(研究代表)



武蔵野大学サステナブルキャンパスプロジェクトは、環境、人、社会の面から武蔵野大学のキャンパスのサステナビリティを推進することを目的とした、教職員・学生協働の実践、研究プロジェクトである。学部横断で9名の教員と多くの学生が参画している。2022年度の活動概要を下記に報告する。

1) 屋上ガーデンにおける人とのつながりとウェルビーイングの研究

有明キャンパス3号館屋上のコミュニティガーデンにおいて、週に1回、だれでも参加可能なオープンワークを開催し、多様な学部・学科の学生、教職員が集まり菜園活動や交流の場づくりをおこなった。現在、学部・学科を超えた100名以上が参加するコミュニティとなっている。参加者を対象としてアンケートやヒアリングにより調査をおこなったところ、屋上の活動が人のつながり(ソーシャルキャピタル)の形成や、ウェルビーイングにポジティブな影響を及ぼしていることが明らかになった。

2) 給水機の設置の実証実験

有明キャンパスに2021年10月~2022年9月の1年間、2台の給水機を設置し、マイボトルの利用促進および環境負荷削減の実証実験をおこなった。結果、16,724本のペットボトル、3,997kgの温室効果ガス排出を削減できたと推定される。アンケート調査では、有明キャンパスで84%、武蔵野キャンパスで89%の人が給水機の設置を希望すると回答した。

3) 教室の照明エネルギー削減の調査

教室の窓からの採光を活用した照明エネルギー削減を研究した。有明キャンパス4号館で照度測定および計算を行い、窓際の照明を消すことによりに十数パーセントの照明電力の削減が可能との結果が得られた。

4) 衣類のリユースと環境配慮行動の研究

衣類のリサイクル・リユースを通じて環境意識を醸成することを目的として、衣服を回収するブースを設営し、通算で142着を回収し、93着の再利用を促すことができた。その他、分別回収等の環境配慮行動を促す仕掛けづくりの研究をおこなった。また、一般消費者への環境配慮行動に関するインターネットを行い、リサイクルに対する認知度等を定量化した。